

報告

2011年九州支部会報告

～11月12-13日、宗像ユリックス～

金光 理（九州支部運営委員 & 福岡教育大学）

1. はじめに

ここ数年の九州支部会は、各県の持ち回りで開催しており、今年度は福岡県の順番で、担当運営委員の地元、宗像市にある宗像ユリックス（かつて天文学会の年会会場にもなりました）の会議室で開催しました。宗像ユリックスにはプラネタリウムもあり、ちょうど3月にリニューアルしたばかりなので、その見学も兼ねての開催です。

九州支部は県によっては天文協会が解散したところもあり、厳しい状況が続いており、支部会の参加数もなかなか増えません。今回も会員の参加12人+会員外12人の24人と、こじんまりとした会になりました。とはいえ地区の天文関係者が顔を合わせる貴重な機会であることは変わらず、バラエティに富んだ発表により中身の濃い会になったと思います。

2. 11月12日（13時～17時）

(1) プラネタリウム鑑賞（13:00～13:50）

上記のように宗像ユリックスのプラネタリウムがリニューアルしたばかりということもあり、一般のお客さんに混じって定期投影の番組の鑑賞をしました。九州初のカール・ツァイス機と4Kプロジェクター+Univiewによるデジタル投影により、現代的な構成のプラネタリウムの美しい投影を改良されたシートで鑑賞することができました。

(2) 研究発表1（14:00～17:00）

○「離島での天文授業と星空観察会」

前田利久（鹿児島県立博物館）

離島の多い地域事情から、SPPを活用した離島の出前授業の実践の紹介がされました。参加学生に偶然、徳之島出身者がいてこうし

た取り組みを体験したかったとの感想でした。

○「小学校での理科学習と天文分野の内容」

中山健二（熊本市立健軍小学校）

新指導要領の各学年での天文分野の内容や、理科教育分野で出てくる学習モデルとの関係の話など、現職の小学校教員ならではの話が展開されました。

○「『金の年』2012年の天文普及計画」

松本直弥（長崎県天文協会）

『金の年』は金環日食・金星日面通過・金星食のことで、これら天文イベントがらみの天文普及計画の紹介でした。こうした天文現象にからめた長崎ゆかりの史跡紹介や、休憩時には日食のビデオ紹介などもありました。

○「遠隔地からの科学ボランティア運営

～『サイエンスキッズみたか』の事例」

鷹野重之（九州産業大学・工学部）

日本宇宙少年団の1分団であるくサイエンスキッズみたか>の運営の様子、とくに主要メンバーが地理的に分散している現状と、その中での運営の工夫が紹介されました。

○「九州大学ペガサスプロジェクトによる

総合的天文教育の試み」

藤原智子（九州大学・基幹教育院）

九大の競争的資金を活用したプロジェクトの紹介、特に全学教育での多人数講義と少人数セミナーの内容の紹介や次週に実施予定の大学祭での観望会の紹介などがされました。

「大分での天文教育普及活動」

仲野誠（大分大学・教育福祉科学部）

小児病棟での訪問天文事業や教育センターのプラネタリウムの活用の紹介、科学館がないという大分の事情の紹介がありました。近いうちの科学館設置は難しい状況だそうです。

(3) 懇親会 於「DICE」(18:00-22:00)

宿泊参加者、近隣の参加者だけでなく、12日だけで帰る予定の2名の参加者も含めて8名で会食懇親をしました。

3. 11月13日(9時~12時20分)

(1) 研究発表2(9:00~10:10)

○「福教大における教員免許状更新講習」

金光理(福岡教育大学)

教員免許状更新講習は各地の大学などで実施されていますが、福岡教育大でのここ3年間の実施事例の紹介でした。

○「簡易版プラネタリウムによる天文教育の実践」

下山田隆(大町町立大町中学校)

工夫をこらされた天文教材の紹介や、ホームスターとMitakaを活用した小中学校での授業の紹介がされました。

○「熊本博物館での天文教育普及活動」

原秀夫(熊本博物館)

熊本博物館での天文関係の活動の紹介でした。常設展示はないものの企画展の様子やリニューアルされたプラネタリウムを少数のスタッフで運営しているとのことでした。

(2) 企画講演(10:20~12:20)

《福岡の大学天文事情》

九州地区随一の人口の割には天文研究者が少なめだった福岡市ですが、近年若手を中心に天文研究者の着任が増えたことから福岡市内の大学に在籍する天文研究者に研究内容などの紹介をしてもらう企画を立てました。

○九州産業大学(紹介者: 鴈野重之)

工学部に2名の天文研究者が在籍すること、専門分野としては降着円盤の構造の研究や中性子星の物理学などの理論シミュレーションの研究が主で、物理分野の授業担当で天文の授業ができていないわけではないそうです。

○福岡大学(紹介者: 大槻かおり)

理学部・物理科学科の応用量子物理学研究室に2010年度から天文研究者が着任し元素の起源の研究をしているとの紹介がありました。同じ理学部内の地球圏科学科にも惑星大気の研究者がいるはずとの指摘があり協力していきたいとのことでした。

○九州大学(紹介者: 野田常雄・藤原智子)

理学部物理学科の宇宙物理理論研究室のスタッフが3名に増え、恒星進化や超新星研究に加え超高密度星の構造の数値計算などを進めている一方、地球惑星科学科の初期太陽系進化学研究室の天文スタッフも星誕生時の流体計算などの研究を進めているそうです。また新しい伊都キャンパスの全学教育を担当する基幹教育院でも歴史的な天文記録の研究などが進められているとのことでした。

4. おわりに

全体を振り返ると窮屈なスケジュールでしたが有意義な会になったと思います。参加者はじめ関係者の皆さまに御礼申し上げます。

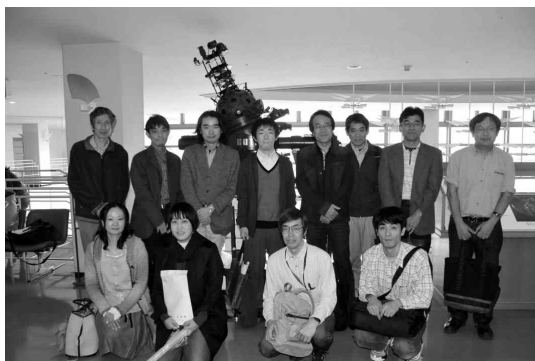


図1 展示中のユリックスプラネタリウムの旧投影機の前で13日参加者一同

金光理